九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第10巻 : 資料編III

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1787570

出版情報：九州大学百年史. 10, 2016-12-28. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

第 3 章　統合移転の開始

第 1 節　工学部等の移転

918　地域と共生する「知の拠点」に

（『西日本新聞』2005（平成 17）年 9 月 24 日朝刊）

社説　地域と共生する「知の拠点」に

九大キャンパス移転

福岡市西区、福岡県前原市、同県志摩町にまたがる九州大学の新しいキャンパス「伊都キャンパス」が、10 月 1 日に開校する。

新キャンパス開校に合わせて、福岡市の都心、博多駅前や天神地区とキャンパスを結ぶ通学用のバス路線などが新設され、JR 筑肥線には新駅も設置された。

開校時は同市東区の箱崎キャンパスの工学系の一部が移り、学生、教職員の計約 2100 人が講義や研究を始めるが、全体の移転が完了する 2019 年度までには約 1 万 6000 人が移動することになっている。

新キャンパス周辺では区画整理事業による大型宅地開発などが進められており、これから住宅や学生向けアパート、飲食店、小売店などが急ピッチで整備される見通しだ。

九州・山口経済連合会や福岡県などは、新キャンパスの周辺に最先端技術の企業や研究機関、住宅などが集積する「学術研究都市構想」を策定し、企業の研究所や研究施設の誘致活動を積極的に展開中だ。

新キャンパスへの大学移転は当初、14 年度までに終えることになっていたが、国の財政難のあおりで移転事業費が不足し、移転計画の完了が 5 年遅れとなった。

移転のスケジュールは遅れているものの、いずれ福岡都市圏の西部地域に伊都キャンパスを核とした新しい学研都市が生まれるのは間違いない。

地元の産学官で設立した九大学研都市推進協議会によると、移転完了後の 25 年ごろにはこのエリアの拠点人口が約 20 万人になるという。

九大としては、こうした新しい都市が誕生することを念頭に置いて、地域と共生するキャンパスづくりを優先すべきだろう。

産学官連携のモデル

九大は 1911 年の設立以来、94 年間にわたって日本の基幹大学の 1 つとして先端的な研究や教育に携わってきた。西日本地区の大学の束ね役として地域の基礎研究や研究開発をリードし、地元企業の技術開発力の底上げに貢献してきた役割は大きい。

新キャンパスでも引き続き、そうした役割を担ってほしい。

なかでも期待されるのが、優れた研究に予算を重点配分する文部科学省の「21 世紀 COE プログラム」に選ばれ、いま全国から注目を集めている水素エネルギー戦略である。

これは、新キャンパスを拠点に「究極のクリーンエネルギー」とされる水素の製造から貯蔵、輸送、利用までの技術開発を進めようというものだ。

新キャンパス内に建設する「水素ステーション」で高圧水素を製造・貯蔵し、そこからパイプラインで講義室や実験棟などに水素を供給、配備した燃料電池ですべての電力をまかなう。キャンパス内には燃料電池バスも走らせ、水素エネルギーを活用したミニモデル社会を実証していくという。

この研究開発には、新日鉄、トヨタ自動車といった全国の有力企業のほか、九州電力、西部ガスなど地元の大手企業や自治体も参加している。産学官連携のモデルプロジェクトになる可能性もある。ぜひ、成功させてほしい。

新キャンパスでは、超微細技術のナノテクノロジーやロボット技術など新しい分野の研究開発にも期待が集まっている。

新キャンパスの周辺には、農業地帯が広がる。地元には農学部のバイオ技術などを生かした野菜や果物の品種改良を期待する声も大きい。

自然科学や工学など理工系の産学連携だけでなく、社会科学や人文科学の分野での地域連携も欠かせない。教職員や学生も地元と連携や交流を深め、大学の頭脳を地域が抱える問題の解決に役立ててはどうか。

アジア重視の戦略

一方、新キャンパスには国内の学生だけでなく、世界各地から研究者や留学生も集まってくる。

九大は世界の 60 大学と学術交流協定を締結しているが、アジア地域の大学との協定は半数以上の 36 大学に上る。学生交流協定は世界の 72 大学と結ばれ、このうち 36 大学がアジア地域だ。

開学当初から「アジアに開かれた大学」を掲げてきた九大は、研究、教育活動などで「アジア重視戦略」を打ち出し、アジアの大学と連携して人材育成などに力を入れる方針だ。

新キャンパスやその周辺では、これから中国、韓国などアジア地域からの留学生や研究者と顔を合わせる機会が増えるだろう。地元の人たちも、普段着のつきあいを心掛けてほしい。

新キャンパスは自然景観をできるだけ生かす造成工事が行われ、地下水の保全や動植物の生態保護、地域への環境への影響を最小限に抑えたのが特徴だ。いわば、自然公園の中にある大学敷地のようなイメージである。

九大は「地域に開かれた大学」を目標に掲げている。それなら、地域の人たちがいつ

でもキャンパスに自由に出入りでき、散歩やデートコースにもなるようにしてはどうだろう。

糸島半島の豊かな自然に囲まれた伊都キャンパスは、地域と共生する「知の拠点」を目指したい。

〔註〕原本縦書き。

919　ニュー九大　期待と不満と

（『日本経済新聞』2005（平成 17）年 9 月 30 日朝刊）

ニュー九大　期待と不満と

伊都キャンパス、あす開校

教授「快適」学生「遠い」　箱崎の商店街「どうすれば」

九州大学の新キャンパス「伊都キャンパス」（福岡市西区など）が 10 月 1 日、開校する。移転の先陣を切る工学部の教職員らは最新の研究設備に満足顔だが、学生からは「交通の便が悪い」と不満も。周辺住民は地域の活性化を期待するが、箱崎キャンパス（同市東区）周辺の商店街は買い物客の学生の流出に不安を募らせている。

◆教職員、学生

田畑や山林に囲まれた 9 階建ての真新しい工学系研究棟。周囲を工事車両が行き交う中、棟内の研究室では運び込んだ実験器具などを整理する学生の姿が目立つ。

引っ越し作業中の知能機械システム部門の男性教授（57）は「実験室などの研究施設が新しくなり、快適」と笑顔。工学部事務職の女性（26）も「箱崎にはなかったエレベーターやコンビニエンスストアが入り便利になった」と喜ぶ。

一方で、食堂の建設は開校に間に合わず、プレハブの仮設小屋でカレーライスやうどんなどを提供。材料物性工学専攻の大学院 1 年の男性（23）は「パソコンを使った研究が中心で、新しい実験室を使う予定もない。通学時間が長くなって不便なだけで、移る必要がない」と話す。

◆地元住民

伊都キャンパスの地元、福岡市西区元岡・桑原地区では昔ながらの民家に交じり、真新しい住宅が目立つ。ある住民は「大学が欲しがった土地を売り、その金で自宅を建て替えた人が多い」と明かす。

住民の取りまとめ役としてキャンパス移転を推進してきた○○○○○さん（81）は「学生との交流を通じて、地域の活性化に役立てたい」と前向き。「公民館を学生との交流の場に」「結婚式も伊都キャンパス周辺で」とアイデアは尽きない。

ただ、同地区では九州大がキャンパス移転を決めた 1991 年当時「風紀が乱れ、騒がしくなる」などと反対する地権者が少なくなかった。今でも「夜は騒がしくしないでほしい。マナーの良い学生が来ればいいけど」（81 歳の女性）と不安をのぞかせる住民

もいる。

◆箱崎地区の住民

箱崎キャンパスからは工学部に続き、今後、理学部、文学部などが続々と移転する。客離れが進みシャッターが閉まったままの店が目立つキャンパス近くの商店街では、学生の流出が苦境に追い打ちをかけている。

自転車店の男性店員（31）は「引っ越しで自転車を処分したいという学生が増えた」とこぼす。「跡地に何ができるか分からないし、これからどう商売を続ければいいのか」と不安を隠せない。

30 年以上にわたり青果店を営む○○○○さん（64）も「買い物客の学生は今後、ますます減るだろう。年も取ったし、商売もあと 10 年できるかどうか……」と肩を落とした。

周辺開発急ピッチ

JR 新駅開業　来春に SC も

九州大学伊都キャンパスの開校を控え、周辺地区は鉄道の新駅が開業。ショッピングセンター（SC）設置の計画も進むなど、開発が急ピッチで進められている。

JR 九州は 23 日、筑肥線の今宿―周船寺駅間に新駅の「九大学研都市駅」を開業。西日本鉄道も博多駅、天神地区とキャンパスを結ぶ路線バスの運行を始めた。

イオン九州は 2006 年 4 月、同駅近くに大型 SC を開業予定。今後も学生向けアパートや飲食店を建設するための区画整理事業が進む。

地場不動産会社によると、新キャンパス移転を控えた 6 月下旬から 7 月末にかけて、今宿、周船寺駅周辺のアパートに学生が相次いで入居。150―200 戸のワンルーム物件が満室となった。

同社は両駅を含む姪浜―筑前前原駅の区間に約 500 人の九大生が新たに移り住んだと推計。今後も「九大生が通学の便の良さに魅力を感じて箱崎や六本松から続々と移り住むはず」とみている。

〔註〕原本縦書き。

920　九州大学伊都キャンパス誕生記念式典・総長挨拶

九州大学伊都キャンパス誕生記念式典・総長挨拶

九州大学伊都キャンパス誕生記念式典にあたりまして、九州大学を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日は、ご多用中にも関わらず、石川文部科学省高等教育局長、麻生福岡県知事、山崎福岡市長、相澤国立大学協会会長、鎌田九州・山口経済連合会会長、石川九州大学学術研究都市推進機構理事長をはじめ国会議員の先生方、在外公館や地元自治体の

関係者、福岡市土地開発公社、設計・建設関係企業など多数の方々のご臨席を賜り誠にありがとうございます。

本日、ここに伊都キャンパス誕生記念式典を行わせていただくこととなりました。今日に至るまで、本キャンパスに対して多大なご支援を賜りましたすべての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。皆様方のおかげをもちまして、本日、誕生記念式典を迎えることができましたことは、本学の教職員にとり、無上の喜びであります。

新キャンパス誕生の経緯については、このあと有川理事から報告いたしますが、新キャンパスへの統合移転は、平成三年十月、第十八代総長でありました高橋先生による「新キャンパス移転構想」の提案から始まったものです。学内でこの構想が了承されて以来、内外の数多くの方と数々の議論を重ねてまいりました。

その議論を集約したものとして、「新キャンパス・マスタープラン 2001」、「工学系地区基本計画」など、キャンパス建設に関する数々の計画がうちたてられ、今日の工学系開校に結実したものであります。

また、来年五月には本式典会場の隣りに建設しております、研究教育棟（ウェスト二号館）が竣工し、工学系のすべての移転が完了、来年秋には第二期開校を予定しているところでございます。

一方、キャンパス周辺におきましては、学園通線や九大学研都市駅の整備、伊都区画整理事業などが進んでおります。また、昨年十月に設立されました「九州大学学術研究都市推進機構」による学術研究都市づくりが着実に進められており、本日の第一期開校を契機に、学術研究都市づくりが更に加速するものと確信しております。

皆様方には、今後、着々と進展してゆく伊都キャンパスと学術研究都市の姿をご覧いただけるものと存じます。

今後も伊都キャンパスの整備と移転が円滑に進行するよう、本日ご列席の皆様、地元の皆様、関係団体の皆様をはじめ多くの方々のご指導、ご協力を賜りつつ、計画を進めて参りたいと存じております。

私ども九州大学は、二十一世紀の知識基盤社会に対応した、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指してまいります。また、変革し飛躍する九州大学として、自然環境と共生し、最新の情報通信技術を活用するなどして、広く地域社会に開かれた、新たな二十一世紀型キャンパスの構築を進めてまいります。

これからの九州大学へのご理解とご支援をお願いするとともに皆様方のますますのご健勝を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。

本日はありがとうございました。

2005 年 10 月 1 日

九州大学総長　梶山　千里

〔註〕九州大学ホームページ。

第 2 節　六本松地区の移転

921　九州大学統合移転スケジュールの変更について

（「プレスリリース」　2006（平成 18）年 9 月 15 日）

九州大学統合移転スケジュールの変更について

概　要

六本松地区の移転については、平成 16 年 9 月に発表した移転スケジュールでは、第Ⅱステージにおいて、全学教育・比較社会文化・言語文化他を箱崎地区へ暫定移転するとしていました。

今般、伊都キャンパスへ直接移転することによって、早期に全学教育に係る良好な学習環境の整備が可能となり、かつ教育研究が一層円滑に機能することとなること、また移転関連コストの削減も可能となることから、移転スケジュールを見直し、伊都地区へ直接移転することとしました。その他は従前の計画どおりです。

新移転スケジュール（　今回の見直し部分　【】の数値は移転人数の概数）

時期	第Ⅰステージ 平成 17 年度～ 平成 19 年度	第Ⅱステージ 平成 20 年度～ 平成 23 年度	第Ⅲステージ 平成 24 年度～ 平成 31 年度
伊都 キャンパス への移転	工学系Ⅰ、Ⅱ 理系図書館Ⅰ 【約 4.3 千人】	全学教育、 比較社会文化、言語文化他 理系図書館Ⅱ 【約 4.3 千人】 基幹整備 新手法による整備	理学系（H26） 情報基盤センター（H27） 中央図書館（H29） 文系（H29、H30） 農学系（H31） その他（H31） 【約 7.0 千人】
	＜用地再取得　平成 25 年度完了＞ →		

[参考]旧移転スケジュール（平成 16 年 9 月発表）

時期	第Ⅰステージ 平成 17 年度～ 平成 19 年度	第Ⅱステージ 平成 20 年度～ 平成 23 年度	第Ⅲステージ 平成 24 年度～ 平成 31 年度
伊都 キャンパス への移転	工学系Ⅰ、Ⅱ 理系図書館Ⅰ 【約 4.3 千人】	基幹整備 新手法による整備	理学系（H26） 情報基盤センター（H27） 理系図書館Ⅱ（H28） 中央図書館（H29） 文系（H29、H30） 全学教育（H29） 農学系、その他（H31） 【約 11.3 千人】
	＜用地再取得　平成 25 年度完了＞ →		
六本松から 箱崎への 移転		全学教育 比較社会文化、言語文化他 【約 4.1 千人】	

※（）内数値の移転年度は、財政状況により変動することがあります。

○直接移転に必要な伊都キャンパスにおける建物の整備手法について

六本松地区（寄宿舎を含む）の跡地処分収入を財源とした民間資金の借入により整備します。但し、寄宿舎の整備については寄宿料を償還財源とした民間資金の活用等による整備手法を別途検討します。

今後、整備規模や資金調達方策等について文部科学省と具体的な協議を進め、国立大学法人法第 31 条に基づく中期計画の変更認可等の手続きを経て事業に着手することとなります。

○六本松キャンパス跡地の処分について

跡地の処分については、福岡市において設置される予定の九州大学六本松キャンパス跡地利用計画策定委員会（仮称）の議論等も踏まえ、都市計画に沿った用途に供することができるよう福岡市等と相談を進めます。

今後、計画が具体化した時点で、国立大学法人法第 31 条に基づく重要な財産の譲渡に係る中期計画の認可手続きを経て、処分することになります。

922　九州大学六本松キャンパス跡地利用計画

（表紙）

「

九州大学六本松キャンパス

跡地利用計画

福　岡　市

平成 19 年 5 月

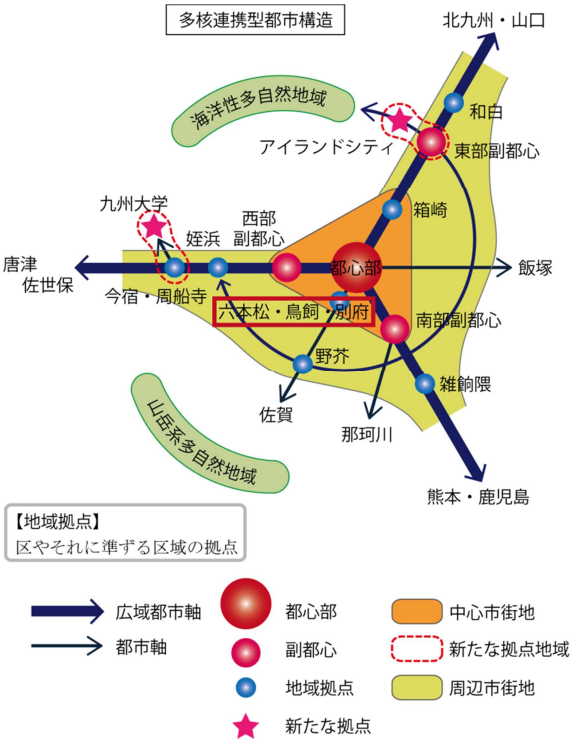
」

1．跡地利用計画の前提

(1)福岡市新・基本計画における六本松の位置づけ（平成 15 年 3 月）

【六本松・鳥飼・別府】大濠公園や都心との近接性を生かしながら、地下鉄 3 号線の整備を契機に交通結節機能の強化を図るとともに、九州大学移転跡地を活用して、商業機能、就業の場などの充実、都市型居住の促進をめざす。

【九大移転跡地】　地下鉄 3 号線の利便性を活かした拠点性を持ったまちづくりに取組む。



(2)国有財産九州地方審議会による

「九州大学移転跡地の利用に関する基本方針」骨子（平成 10 年 12 月）

1. 移転跡地については、公用、公共用優先の原則の下、土地の利用の改善につながる波及効果を都市の全般のみならず広範な地域にもたらすものに重点的な活用を図ること。
2. 具体的には、次のような用途を充てるよう配意する。その際、移転跡地及びその周辺地域の環境や歴史・文化等をも踏まえ、ゆとりと潤いのあるまちづくりに配意しつつ、有効活用を図るものとする。
   - ・都市環境の改善　　・市民の福祉や生活の向上
   - ・広域的な拠点づくり　　・九州・山口地方の中枢都市としての機能充実
   - ・周辺環境等から見て地区にふさわしい用途
3. 六本松地区は、近隣に、大濠公園、舞鶴公園などの都市基幹公園が存在する一方業務、商業施設が多いなど周辺が熟成した市街地であることや、現在工事が進められている地下鉄 3 号線の駅設置の予定があること等を踏まえて、地域の活性化

にも配意しつつ、用途を検討する。

2. まちづくりの基本理念

〇地域・全市・広域への貢献

・六本松キャンパス跡地（以下跡地という）は、都心近くに残された貴重なまとまりのある用地であり､計画的なまちづくりが可能なことや跡地利用計画の前提から、拠点性の向上を図り、地域・全市・広域へ貢献するまちづくり

〇街の魅力向上と賑わいの創出

・六本松地区の持つ魅力と広域を対象とする跡地利用の相乗効果による街の魅力向上

・地域の持つ優れた特性を活かした多様なニーズへの対応、地域商業の活性化等につながる来街者をふやすことによる賑わいの創出

〇九大に代わるシンボルづくり

・地域拠点としての位置づけや、長い間地域の中心的な役割を担ってきた九州大学の跡地をふまえた、九大に代わる新たなシンボルづくり

〇快適な都市環境の形成

・市民が憩い・やすらげる、緑とゆとりを持った快適な都市空間の形成

・地下鉄・バスなど、利便性の高い交通条件を活かし、環境に優しい公共交通機関の利用を主としたまちづくり

〇安全・安心のまちづくり

・高齢者や障害者などすべての人が安全かつ快適に生活できるよう、建物や基盤施設などユニバーサルデザインに配慮するとともに、耐震化・不燃化や避難場所の確保など災害にも強い安全・安心のまちづくり

3. 都市機能のあり方

地域・全市・広域への貢献、まちの魅力向上と賑わいの創出を図るため、拠点としての機能や地域を活性化する機能の導入

〇拠点としての機能

・地域拠点である六本松・別府・鳥飼地区の拠点機能の充実

・広範な地域へ貢献する拠点機能の誘導

〇地域を活性化する機能

・地域の振興や活性化につながり、地域の魅力を高める機能の導入

・多様なニーズに対応した利便性の高い機能の導入

法　曹　機　能
裁判所・検察庁・弁護士会等

商業・業務・サービス・
交流機能と居住機能等に
よる複合的な利用

4. 都市基盤のあり方

地下鉄 3 号線など公共交通機関の利用を高め、人や環境にやさしいまちづくりを進めるため、交通結節機能の強化や歩行者や車の動線の形成

○公共交通機関を最大限活用するため、駐輪施設や案内板設置など交通結節機能強化

○周辺環境への配慮や跡地の有効利用の実現のためのアクセス道路や駐車場の配置

○跡地と周辺を結ぶ、安全で快適なゆとりある歩行者動線の確保

5. 空間構成のあり方

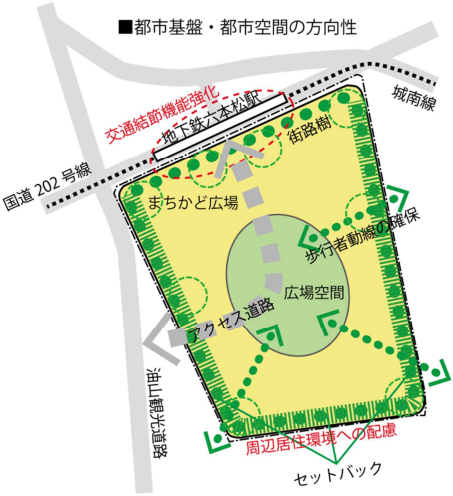
緑とゆとりを持った市民に開かれた快適な都市空間の形成

○災害等の避難場所、市民の憩いの場として広場を配置

○広場と建物の空間構成による、シンボリックな街区デザインを創出し、統一感のある都市景観を形成

○セットバック等による周辺環境に配慮した空間の創出

○既存樹木や歴史的モニュメントの活用の検討



6. ゾーニングの考え方

法曹機能は、跡地の東側・南側周辺地域の住環境への配慮や、北側地域の賑わい確保などの面から、跡地南側が適切

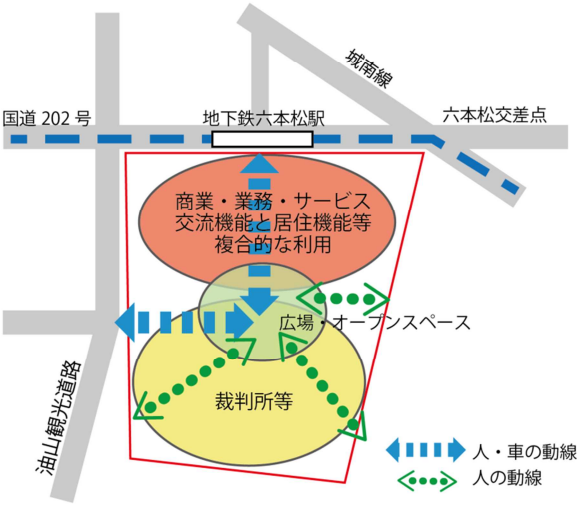
○南側ゾーン

・周辺の閑静な住宅地になじむ法曹機能

○北側ゾーン

・交通の利便性を活かし、賑わいの創出や地域の活性化に貢献できる機能

■跡地利用計画のゾーニング
〔六本松キャンパス跡地　約 6.5ha〕



7. 今後の進め方と検討課題

九州大学六本松キャンパス跡地利用計画策定委員会では、九大跡地の国有財産九州地方審議会による公用・公共用優先を原則とする答申などを前提として、まちづくりの基本的な考え方や裁判所等を跡地南側に配置したゾーニングなどについて幅広い議論・検討を行い、六本松キャンパス跡地の利用計画を取りまとめた。

今後、この跡地利用計画の具体化にあたっては、策定委員会での議論・検討内容を十分に踏まえながら、以下の事項について留意した検討が必要である。

○事業スケジュール・プログラム

・地域の振興や活性化を考慮し、キャンパス移転後できるだけすみやかに土地利用転換が図られるように、関係機関は速やかな処分や整備の着手に向けて、手

続きを進めるなど、跡地利用計画の実現に向けて取り組むこととする。

○地域との連携

・跡地利用計画を踏まえたまちづくりの具体的な検討にあたっては、関係機関と地域において、十分に意見交換を行いながら進めることとする。

○跡地への導入施設

・北側ゾーンの具体化にあたっては、地域の振興や活性化を考慮し、民間活力を積極的に導入するとともに、周辺地域への影響や将来需要等を見極めながら検討する。

・駐車場など集約することにより有効利用が考えられる施設について、関係者で検討する。

・法曹機関の施設については、市民の文化的な活動やコミュニティ活動などにも利用できるよう、できるだけ市民に開放されることを検討する。

○交通基盤

・交通基盤については、周辺道路の交通状況を踏まえ、公共交通機関の利用を高める具体策やアクセス道路の配置等について、関係機関において十分な協議・調整を図りながら検討する

・交通対策については、方向認識のしやすいカラー舗装など簡易にできる方策についても検討する

○景観・空間形成

・跡地まちづくりの具体化にあたり、統一感のあるデザインや良好な景観の形成のため、まちづくりガイドライン等のルールを検討する。

・法曹機関の建物周辺については、できるだけ開放的な空間となるように検討する。

・セットバックや広場・オープンスペースなどの跡地内の公共空間を確保するため、地区計画その他の都市計画法等による手法について検討する。

○跡地周辺と連携したまちづくり

・六本松地域は、大濠公園、南公園や美術館をはじめとする文化交流施設に恵まれており、これらの近接性を高め利用促進を図るため、跡地内や周辺において、施設案内や情報提供などの方策を検討する。

・跡地利用の具体化との整合を図り、地域と行政が情報を共有しながら共働して、跡地周辺まちづくりに取り組んでいく。

《参考資料》

(1)九州大学六本松キャンパス跡地利用計画策定委員会 名薄

（順不同・敬称略）

【委員】

氏　名	役　職　名
樗木　　武	九州大学名誉教授（委員長）
出口　　敦	九州大学人間環境学研究院教授（副委員長）
山本　　智子	弁護士
原田　　陽次	中央区校区自治連代表者会会長
梅津　　英夫	草ヶ江校区自治協議会会長
小松　　至誠	草ヶ江校区まちづくり協議会副会長
森友　　俊隆	草ヶ江校区まちづくり協議会副会長
芦田　　義則	九州地方整備局企画部長
三村　　保始	福岡県建築都市部長
能澤　　他見夫	都市再生機構九州支社業務部長
大渕　　和幸	九州大学企画部長
浜崎　　真人	福岡市中央区長
中村　　耕二	福岡市都市整備局長

【オブザーバー】

北村　　信男	福岡財務支局管財部長
河副　　晋一	福岡高等裁判所会計課長
那花　　弘行	法務省大臣官房施設課補佐官
古賀　　和孝	福岡県弁護士会

(2)九州大学六本松キャンパス跡地利用計画策定委員会の経緯

○第 1 回策定委員会　：　平成 18 年 10 月 24 日

○第 2 回策定委員会　：　平成 18 年 12 月　5 日

○第 3 回策定委員会　：　平成 19 年　3 月 15 日

923　神輿担ぎ、寮よさらば

（『朝日新聞』2008（平成 20）年 7 月 6 日朝刊）

神輿担ぎ、寮よさらば　九大生

福岡市城南区にある九州大学田島寮の寮生たちが 5 日、最後の寮祭を開いた。中央区の六本松キャンパスの移転に伴い、来年 3 月で閉寮する。赤、青、黄の締め込み姿の 1 年生約 100 人が 3 つの樽神輿を担いで市内中心部を練り歩いた＝写真、柏木和彦

撮影。梅雨空を吹き飛ばすように「わっしょい、わっしょい」の声が響いた。

今年で 52 回目。天神の繁華街から寮まで約 5 キロを 3 時間担いだ寮生たちは、途中で六本松キャンパスに寄り、寮歌を歌って気勢を上げた。神輿が田島寮に着くと、実行委員の 2 年生が「お前ら、最高の仲間じゃ。一生忘れんぞ」と感極まった様子で後輩たちに声をかけた。駆けつけた寮 OB たちも拍手を送った。○○○○・副実行委員長（19）は「新キャンパスの寮にも田島寮の伝統を伝えたい」と話した。

〔註〕原本縦書き。

924　伊都キャンパスセンターゾーン・オープニングセレモニー・記念式典　総長挨拶

伊都キャンパスセンターゾーン・オープニングセレモニー・記念式典　総長挨拶

九州大学伊都キャンパスセンターゾーン・オープニングセレモニーの記念式典にあたりまして、九州大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、布村文部科学省大臣官房文教施設企画部長、中島福岡県副知事、吉田福岡市長、鎌田九州経済連合会会長、石川九州大学学術研究都市推進機構理事長をはじめ国会議員の先生方、在外公館や地元自治体の関係者、福岡市土地開発公社、設計・建設関係企業など多数の方々のご臨席を賜り誠にありがとうございます。

本日、ここに伊都キャンパスセンターゾーンの開校に至るまで、多大なご支援を賜りましたすべての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。皆様方のおかげをもちまして、本日、記念式典を迎えることができましたことは、本学の学生、教職員にとり、無上の喜びであります。

伊都キャンパスの移転事業の経過及びセンターゾーンの施設の概要については、この後今泉理事から報告いたしますが、新キャンパスへの統合移転は、平成 3 年 10 月、第 18 代総長でありました高橋先生による「新キャンパス移転構想」の提案から始まったものです。学内でこの構想が了承されて以来、内外の数多くの方と数々の議論を重ねてまいりました。

その議論を集約したものとして、「新キャンパス・マスタープラン 2001」、「工学系地区基本計画」など、キャンパス建設に関する数々の計画が打ち立てられ、平成 17 年 10 月に工学系の移転を開始し、伊都キャンパスが誕生しました。その後も、法人化した利点を活かした様々な仕掛けのもと、六本松地区を直接移転する計画に変更し、キャンパス整備を進め、本日のセンターゾーンの開校が実現したものです。

また、本年 10 月には、伊都図書館、数理学研究教育棟、総合学習プラザ及び人工芝を貼った多目的グランドが竣工し、センターゾーンのすべての移転の完了を予定しているところでございます。六本松地区の伊都キャンパスへの移転は、長らく分断状

態にあった全学教育課程と多くの専門分野とを統合するうえでの重要な過程の 1 つであり、本学の悲願でもありました。

一方、キャンパス周辺におきましては、学園通線や九大学研都市駅周辺の整備、また、「九州大学学術研究都市推進機構」による学術研究都市づくりが着実に進められており、福岡市産学連携交流センターの整備、福岡水素エネルギー戦略会議による水素フリーウェー構想や燃料電池の実証実験など、学術研究都市づくりが更に加速するものと確信しております。皆様方には、今後、着々と進展してゆく伊都キャンパスと学術研究都市の姿をご覧いただけるものと存じます。

JR 九州（九州旅客鉄道株式会社）、西日本鉄道株式会社、昭和自動車株式会社の各社及び前原市におかれましては、駅の整備、バスの増便、学生負担の軽減等にご配慮・ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

今後も伊都キャンパスの整備と移転が円滑に進行するよう、本日ご列席の皆様、地元の皆様、関係団体の皆様をはじめ多くの方々のご指導、ご協力を賜りつつ、計画を進めて参りたいと存じております。

私ども九州大学は、2 年後の 2011 年に創立 100 周年を迎えることとなります。「知の新世紀を拓く」を基本テーマとした記念事業の準備活動を行っております。募金活動をはじめとして計画を具現化し、大学の改革と課題解決に連動した新しい記念事業を成功させるために、教職員が一体となって最大限の努力をいたしたいと考えております。

九州大学は、世界第一級の教育・研究と診療活動を展開し、アジアを重視した世界の拠点大学として、多くの留学生を引き寄せ、また、日本を代表する基幹総合大学として、都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学として、発展し続けることが期待され、宿命づけられています。

これからの九州大学へのご理解とご支援をお願いするとともに、皆様方のますますのご健勝を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

平成 21 年 4 月 6 日

九州大学総長

有川節夫

〔註〕九州大学ホームページ

925　六本松キャンパス閉校式総長挨拶

六本松キャンパス閉校式総長挨拶

九州大学六本松キャンパス閉校式にあたりまして、九州大学を代表して一言ご挨拶

申し上げます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、元部局長の方々、同窓会の方々、草ヶ江校区まちづくり協議会の方々など多数の方のご臨席を賜り誠にありがとうございます。これまで六本松キャンパスの発展に多大なご支援を賜りましたすべての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

大正 10 年（1921 年）の旧制福岡高等学校の創設から今日まで、11 万人をはるかに超える多くの学生が学び、青春を謳歌した六本松キャンパスは、伊都キャンパスへの移転により、本日をもちまして、その 88 年の歴史に幕を降ろすこととなりました。私自身も、この六本松キャンパスで学びましたので、この学びの地は個人的にも多くの語りきれない思い出が詰まっております。

六本松キャンパスの歴史を振り返ってみますと、大正中期の新高等学校令により地名等を冠した高校の増設が図られる中、1921 年（大正 10 年）11 月、旧制福岡高等学校が創設されました。以後、福岡高校は、戦中期の繰上げ卒業・修業年限短縮、学徒出陣等多くの困難を乗り越え、廃校までに約 5 千人の卒業・修了者を輩出しました。

そして、1949 年（昭和 24 年）5 月、大学本体（いわゆる旧制九大）、福岡高校、九大附属医学専門部、久留米工業専門学校の 4 校が統合して「新制九州大学」が設置され、この六本松キャンパスは新制九大教養部の「第一分校」となりました。

なお、新制九大には当初 3 つの分校があり、久留米市小森野町（こもりのまち）に「第二分校」が、久留米市国分町（こくぶまち）の旧陸軍跡地に「第三分校」が設置されました。この六本松キャンパスには福岡市及び近郊在住の文、理、両科の学生が、「第二分校」にはそれ以外の理科、「第三分校」には文科の学生が入学しました。しかしながら、「第三分校」は軍隊跡地ということもあり、同校自治会が統合移転を主張し、昭和 26 年に廃校となりました。また「第二分校」は水害被害や赤痢の流行等により昭和 30 年 10 月に廃校となりました。こうして、結局、九州大学の分校はこの六本松の「第一分校」のみとなり、昭和 30 年 10 月、その名も「九州大学分校」と改称されました。

その後、「九州大学教養部」となりましたが、教養部の在り方が議論される中、1994 年（平成 6 年）「教養部」が廃止され、他部局の振換え協力も得て大学院比較社会文化研究科及び大学院数理学研究科等が設置されたところであります。このように、この六本松キャンパスは長い間、九州大学の特に一般教育において大きな役割を果たしてまいりました。厳しい受験勉強から解放され、多くの学生が親許を離れて初めて生活する場所でありました。その意味で多くの卒業生にとって愛着の一層深いキャンパスでありました。

九州大学は 1991 年（平成 3 年）10 月に伊都新キャンパスへの統合移転を決定し、学内外の数多くの方々のご尽力により、伊都キャンパスの整備が進められてまいりま

した。特に、六本松地区の移転につきましては、法人化した利点を活かして、直接伊都キャンパスに移転する計画への変更を行い、本年 4 月より、全学教育、比較社会文化研究院及び学府、言語文化研究院、高等教育開発推進センター等、一部を除いた教育研究組織が、伊都キャンパスでの新たな教育研究活動を開始したところであります。

そして、このたび、建設が遅れておりました数理学研究教育棟の新設、伊都図書館の増築が完了し、六本松キャンパスからの移転が全て完了する運びとなりました。これにより、念願の研究院レベルでの分断状態が解消されることとなりました。

この歴史ある六本松キャンパスを閉校することは感慨深いものがありますが、九州大学は世界第一級の教育・研究と診療活動を展開し、アジアを重視した知の世界的拠点大学として、多くの留学生を引き寄せ、また、日本を代表する基幹総合大学として、都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学として、発展し続けることが期待され、宿命づけられています。六本松キャンパスはその役目を終えますが、その精神は伊都キャンパスへと引き継がれ、優れた人材が数多く育ってくれることを願っています。

本日、ここに六本松キャンパスを閉校いたしますが、これからの九州大学へのご理解とご支援をお願いするとともに、折に触れて伊都キャンパスにも足をお運びいただき、新しいキャンパスで学ぶ学生達を激励いただければ幸いに存じます。皆様方のますますのご健勝を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

平成 21 年 9 月 29 日

九州大学総長

有川節夫

〔註〕九州大学ホームページ

926　九州大学統合移転推進本部規則

（2010（平成 22）年 4 月 1 日施行）

九州大学統合移転推進本部規則

平成 21 年度九大規則第 63 号

施　　行：平成 22 年 4 月 1 日

（趣旨）

第 1 条　この規則は、九州大学学則（平成 16 年度九大規則第 1 号。以下「学則」という。）第 15 条の 3 第 2 項の規定に基づき、統合移転推進本部（以下「推進本部」という。）の構成その他必要な事項を定めるものとする。

（推進本部）

第 2 条　推進本部は、次に掲げる部局等をもって構成する。

(1)　統合移転事業推進室

(2)　企画部統合移転推進課

2　推進本部に本部長を置き、総長をもって充てる。

3　本部長は、統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画の推進に関する事項を総括する。

4　推進本部に副本部長を置き、総長が指名する理事をもって充てる。

5　副本部長は、本部長を補佐する。

（運営会議等）

第 3 条　推進本部に、統合移転推進本部会議を置く。

2　統合移転推進本部会議の組織及び運営等に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第 4 条　推進本部の運営に関する事務は、企画部統合移転推進課において処理する。

（補則）

第 5 条　この規則に定めるもののほか、推進本部の運営等に関し必要な事項は、本部長が定める。

附　則

この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

927　九州大学統合移転事業推進室規程

（2010（平成 22）年 4 月 1 日施行）

九州大学統合移転事業推進室規程

平成 21 年度九大規程第 89 号

施　　行：平成 22 年 4 月 1 日

（趣旨）

第 1 条　この規程は、九州大学学則（平成 16 年度九大規則第 1 号）第 16 条第 3 項の規定に基づき、統合移転事業推進室（以下「推進室」という。）の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第 2 条　推進室は、統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画に係る企画・立案を行う。

（組織）

第 3 条　推進室は、室長、副室長及び室員をもって構成する。

（室長）

第 4 条　室長は、総長が指名する理事をもって充てる。

2　室長は、推進室の業務を掌理する。

（副室長）

第５条　副室長は、次条に規定する室員のうちから室長が指名する者をもって充てる。

２　副室長は、室長を補佐し、推進室の業務を整理する。

（室員）

第６条　室員は、統合移転事業及び伊都キャンパスの整備計画に関し専門的知識を有する職員のうちから総長が指名する。

２　室員は、室長の命を受け、推進室の業務を処理する。

（事務）

第７条　推進室に関する事務は、事務局各課等の協力を得て、企画部統合移転推進課において処理する。

（補則）

第８条　この規程に定めるもののほか、推進室の運営等に関し必要な事項は、室長が別に定める。

附　則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。